

平成22年11月の解説（府県天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は、北日本と東日本の日本海側は低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。東日本の太平洋側と西日本では、高気圧に覆われて概ね晴れました。沖縄地方は高気圧の南縁で、湿った気流の影響により曇りの日が多くなりました。中旬は、北日本から西日本は気圧の谷が周期的に通過し、天気が数日の周期で変わりました。沖縄地方は高気圧の南縁で曇りの日が多く、前線の影響で大雨となった所もありました。下旬は、高気圧と低気圧が日本付近を交互に通過し、天気は全国的に数日の周期で変化しました。

月を通しての日照時間は東、西日本では平年より多くなり、特に西日本の日本海側でかなり多くなりました。沖縄・奄美では少なくなりました。降水量は西日本では平年より少なくなり、特に日本海側でかなり少なくなりました。北日本の日本海側では多くなりました。気温は北日本では平年より高くなりました。

【11月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で87%、明後日予報では84%と、ともに例年^(注)より3ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は北海道と東、西日本はほぼ4から6ポイント高くなりましたが、東北地方では5ポイント低くなりました。明後日予報は北海道、東海、近畿、四国、九州北部地方では7から11ポイント高くなりましたが、九州南部地方では6ポイント低くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より0.2℃から0.5℃小さくなり、全国平均では0.3℃小さい1.4℃でした。最低気温の予報誤差はほぼ全国的に例年より0.1℃から0.3℃小さくなり、全国平均では0.1℃小さい1.5℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の天気予報の利用にあたって】

冬本番となり日本付近に寒気が南下すると、気象衛星の画像で日本海にしばしば小さな雲渦の見られることがあります。これらは前線を持つ通常の低気圧に比べてとても小さいですが、強い風を伴って海難事故の原因となったり、平野部に大雪をもたすことがあります。このようなシビアな現象になるかどうかの予想は、そのスケールが小さいため難しい場合があります。しかし近年、数値予報モデルの高精度化などにもない予報技術が向上するにつれ、こうした困難が克服されてきました。